

コーポレート・ガバナンス・アワード2016  
於： 東京（ホテルグランドヒル市ヶ谷）  
大賞発表 2016年12月5日(月) 16:40～16:55



JMRI

www.jmri.co.jp

鳥取・熊本・大分・福島の震災及び東日本大震災・各種災害等において、被災された方々と復興者のみなさまのご安全と1日も早い実りある復旧復興と共に、ご無念ながらに天上に召されました尊い御霊・御仏のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

被災された皆さまへ  
わたし達は応援しています

「勇気ある監査役・監査人大賞」  
「勇気ある通報者大賞」「勇気あるガバナンス大賞」  
2016年度の受賞者発表

主催： 日本マネジメント総合研究所合同会社

プレゼンター 戸村 智憲



がんばろう  
日本!

GANBARO NIPPON

- オリンパスや大王製紙や東芝などをはじめ、各種不祥事が相次ぐ中、監査役としてなすべき対応をとったり、内部通報者・告発者として不正を是正しようとしたりしても、往々にして**正しいことを行った者の方が、企業や組織からしっぺ返しをされたり社会から疎外されがち**である。
- 正しいことを行った者に対し、不正を行っている者が、**監査心理学における「加害者と被害者の入れ替わり」**が起こり、不正を正す指摘・是正行為・内部通報・内部告発などを行った者の方が「裏切り者」や「密告者」として**あたかも「加害者」であるかのように、そして、不正を行っている者の方が「被害者」であるかのように装われる**ことがある。
- **米国のドッドフランク法や公益通報関連法制度**のような、通報者に報奨金を与えて正しい行動に対する一定の報いがあれば生活資金にも困らないであろうが、日本ではそのような報奨金制度はなく、会社からも社会からも疎外され、正しいことを行おうとする風土が育まれないことを危惧される。
- そこで、本企画では、報奨金のような実利を差し上げられなくとも、正しいことを身の危険や生活の危機に直面されたとしても貫かれている方々・企業などに対し、**社会的に応援するメッセージを届け、少しでも社会風土を変えていくきっかけになればと願って企画・開催させて頂くこととした。**

- この「**勇気ある監査役・監査人大賞**」「**勇気ある通報者大賞**」「**勇気あるガバナンス大賞**」は、選考された方や団体などの過去の隠された事実や今後の健全性を担保・確証あるいは健全であり続けると保証するものではありません。
- 各大賞の選考の基本的な参考基準
  - ・私利私欲からではない**勇気ある言動・通報・告発**かどうか
  - ・**被害者や社会など誰かの役に立っている**かどうか
  - ・**売名行為や意趣返しとしての言動・通報・告発**になっていないか
  - ・**正義を成すにもその成し方が正しい**かどうか などに沿って選定
- 選考アドバイザーの方々や広く一般からの大賞候補の公募・パブリックコメント等にて当社へご推薦やアドバイスなど頂きつつ、本大賞選出における不利益を特定のご協力者さまに負わせることのないよう、最終的な責任と選出を当社にて行い、正しさを求めて勇気を出された方々を社会に応援する上で最適ではないかと思われる方や団体等を選考致しました。
- 必ずしも、問題・事件などの報道の大きさやインパクトの大小で決まるものではありません。また、公益通報の権利濫用や監査役・監査人の権利濫用をいたずらにあおるものでもありません。

- ここでの大賞発表は、日本における全ての企業や監査役・監査人や通報者などの活動を網羅的に全事案・秘められた事実などを完全に把握できたものではなく、主に公表された情報等を基にしています。したがって、「名もなき戦士」のように表に現れてきていない正しさへ向けた争議に当たられている方々がいらっしゃるであろうことと、その方々への応援も併せてお届けできればと思います。
- 今後、大賞発表などの活動を続けていける際には、より合理的・機能的な選考過程と十分な調査・準備期間を設けて進めていければと思っております。主宰の戸村の思いとして、企業・団体に媚びるような大賞であったり、いたずらにあおるような大賞であることではなく内部自治・統治体の中での自浄作用を高める上で大切な取り組みを社会としてまっとうに評価していければと願っております。
- 企画運営ともに至らぬ点が多々ありましたが、社会的に各方面でのまっとうで妥当な言行をたたえるため全額を戸村の私費でまかないつつ行う社会貢献活動として温かくお見守り頂ければ幸いです。

## 事前のおことわりについて・・・③

- あまりかっこよくないお話しですが、今回の大賞発表において、いわゆる「受賞者」へのトロフィーのようなものの贈呈や受賞者スピーチと宴席というような華美な仕掛けはございません。
- 中には、指摘や監査活動や通報等において、もうそっとしておいてほしい、という方々や、そもそも、受賞を目的にして活動しているわけではないという無欲な方々がいらっしゃると思われれます。
- そこで、ここでの大賞発表は、あくまでも、社会として監査役・監査人や通報者やガバナンスの一翼を担われる方々の組織の健全化に取り組まれている方々の活動を風化させたり疎外したりせず、社会的に応援する土壌を耕す第一歩としてとらえております。
- 今回も、華美でハクをつけるためのような儀式もショーアップも損得も何もない中で、ひっそりとでも確実に、まっとうな取り組みを進める方々の活動やガバナンス健全化への活動等を理解し尊重していける場になればと思う次第です。

## ■ 勇気あるガバナンス大賞(2016年) 受賞者

### ドナルド・トランプ 第45代アメリカ合衆国大統領

#### (選考理由)

- 際立った暴力的な発言やはちゃめちゃぶり、偏った発言などを通じて、各国の首脳・政党党首などの中で偏ったスタンスをとる者だれもが、トランプ氏と比してかなり偏った者でさえ中道穏健な立ち位置に見えてしまうほどであり、そのことをもって、偏って暴力的な発言をしていたような方々でさえも、トランプ氏を反面教師として人権・ダイバーシティ&インクルージョンについて理解を深めようとする気運すら醸成した感がある。
- 大統領としての手腕はこれから問われるものであるが、良きブレーンをフル活用して持ち前の押しの強さで施策を実践に移していければ、トランプ氏個人の能力は別として、良き経済効果が生じる可能性はあり得る。後世の歴史的な考察を必要とする可能性があり得る中で、同じ「勇気」といっても、暴走による「蛮勇」となるか、健全に人権・倫理・ダイバーシティ&インクルージョンといった観点から妥当な「義勇」となるかについては、念のため慎重に今後の推移を見守るべきものであろう。
- 国際情勢・ミリタリーバランス・経済・その他さまざまな面でトランプ氏の大統領就任により多様化と適応の真価が問われるものと思われるが、その過程で、トランプ氏の支持者もそうでなかった方々も、また、国際社会も、相互に幸せになりあえるようにするにはどうしていくべきかについて学びを深められることを切に願うものである。

- **勇気ある監査役・監査人大賞** (監査委員等含む) (2016年) 受賞者

## 厚労省の「過重労働撲滅特別対策班」(通称:カトク)

### (選考理由)

- 厚生労働省はいわゆるブラック企業や労働環境上の問題がある企業にも、ある種の国としてのお墨付きを与えてきたことはゆゆしき問題であろう。
- 一方で、カトクの活動を通じて、過去にお墨付きを与えた企業を含めた聖域なき労働環境是正の調査や指導などを通じて、過労死やメンタルヘルス不調者がひとりでも多く救われ、また、そもそもそのような問題に至る前に良き労働環境が整備されることが期待される。
- 厚生労働省内で医療現場の過重労働をどこまで是正できるのかについては、かつて有名な某病院の長時間労働等における厚労省の対応にやや問題があったように見受けられ得るが、一般事業者だけでなく、医療福祉機関の過重労働もどこまで踏み込んで裁けるのかについて、今後の進捗を見守りたいところである。

## ■ 勇気ある通報者大賞(2016年) 受賞者

### 盲導犬受け入れ拒否に対して勇気ある通報・相談をされた視覚障がい者の方々 (合同受賞)

#### (選考理由)

- 河北新報2016年12月3日(土)記事によれば、盲導犬を同伴した障害者の受け入れを、飲食店や公共施設、交通機関が拒むケースが宮城県内で後を絶たない。盲導犬の受け入れは2002年施行の身体障害者補助犬法で義務付けられ、今年4月には障害者差別解消法も施行されたが、抜本的な解決には至っていない。

日本盲導犬協会仙台訓練センターによると、同協会の盲導犬を利用する県内の視覚障害者は15人で、受け入れ拒否の報告は15年が10件、今年11月までに9件あった。金井政紀センター長は「報告が来るのは相当腹に据えかねたケース。実数は何倍もあるだろう」と説明する。

拒否したのは飲食店がほぼ半分で、他にはホテル、医療機関、タクシー、スポーツ施設、神社と多岐にわたる。職業訓練校や自治体庁舎の食堂といった公の施設でもあった。医療機関を巡っては厚生労働省がホームページやパンフレットで「受け入れ義務がある」と呼び掛けるが、仙台市内の大規模な病院でも受診や見舞いの拒否が発生している。

補助犬法は犬の健康衛生の管理を利用者に義務付ける。犬は迷惑を掛けないよう特別な訓練を受ける。「待合室や診察室、病室など一般的な患者が入れる場所ならば盲導犬の受け入れに問題はない」と金井センター長は理解を求める。

交通機関では今年、格安航空会社が盲導犬利用者4人のグループに「1機につき受け入れは1匹」との理由で予約を断った。グループは大手航空会社への予約変更を余儀なくされた。宿泊予約でも盲導犬同伴を告げると満室を理由に断る施設が少なくない。盲導犬協会は「受け入れ拒否の可能性がある」とみる。

拒否の報告があると、協会は店や施設に事情を聴く。法律を知らなかったり、事業者の受け入れ方針が現場に浸透していなかったりするケースが多い。70%は一度の説明で解決するが、交渉を繰り返しても改善しないケースが5%あった。

(上記の出典: <http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20161203-00000009-khks-soci>)

- 以上のような状況において、復興地において、誰かの人権が損なわれる際に悪しき絆で排除を野放しにせず、他者の人権が損なわれる際(いじめ等も含む)にこそ、町並みや建物などのインフラだけでなく、良き絆で互いに幸せになり合えるように「心や人権に関するインフラ」となる社会風土や相互扶助といった面の一層の強靱化を願う次第だ。⓪